

台風と東部地区大会

土ではないゴム製全天候トラックになって半世紀近いが、落雷と危険突風では競技スケジュール変更は致し方ないだろう。特にしらこぼと競技場は竜巻に襲われ使用不可能になった時期がある。今回の2017年東部新人大会はまさに台風の影響を受け、機器が故障し、2日目は選手団の身の危険を回避するため競技スケジュールの大幅変更になった。選手の安全を考えれば、運営の方々の正しい判断であると思う。

天候は降雨、3～4mの風が舞う。しらこぼとは周囲に一切の高層建造物がないので「風の通り道」と言われている。2日目は終始ホームストレートが向かい風3m。

タイム決勝一発のレースになった。

★新しい波

新・主将 鈴木 公大が県大会出場をかけたレースに挑んだ。



前日の100mで準決勝がなくなったためシードを除いた12位までを決定するレースだ。

見事にこのレースの着順で県への出場をつかんだ鈴木。短距離陣は奮闘し100m200mで3人が県大会への出場を決めた。



短距離チームの1年の原口 雄多は100m3位11秒22(-0.5m)をマークし、今後が期待される選手だ。400mRはバトンミスによって大きくタイムをロスしたが入賞。1600mRと共に県大会で大幅な記録更新が期待される。

★長距離で2冠

今回の春陸の注目は長距離レースに集まった。

天候は降雨、3~4mの風が舞う。

まず3000mSCで打木が優勝を飾った。レース前から「勝ちに行く」という強い意志を持ってのぞんでいた。



青木涼真の活躍を目標に秋庭先生の指導の下、長距離チームが活況を呈している。

その打木に負けじと、皆川もタイトルを狙っていた。



★5000mの駆け引き

5000mは昌平高校の有力選手が優勝と目されていた。2位以降とは大きく持ちタイムを引き離し、大きな大会でも活躍している選手であった。春高、他の選手たちは2位争いと評されていたのだった。

決勝1組がスタート。

皆川 和範と1年生の大槻 優晴はトップに食らいつく。1年生

の大槻は皆川について行って勝ちたいと強い意気込みでレースにのぞんだ。2年生の西口 翔太も8位入賞ラインをキープ。ラップを重ねる度に、皆川はリズムをつかんできたようで脚が落ちない。逆にトップの昌平高校の走者は表情が苦しくなってきた模様。どうやら本調子ではない様子。

そこで皆川は先頭に立つとペースアップ。大槻も食い下がるが少しづつ後退していく。春日部東の3人がそれを捉え吸収。

2位との差を100mに広げて皆川がゴール。見事に東部地区優勝を飾った。西口も8位に。

必死に食い下がったが大槻は9位。実に見応えのある駆け引きのあるレースであった。

皆川に食らいついて追走した1年の大槻は実に勇敢な走りであった。レース後、悔し涙を流したその志しの高さは、必ず近い将来実を結ぶであろう。



打木、皆川を軸に中長チームは県、そして駅伝シーズンに向けて盛り上がりを見せている。今回、故障で欠場した優勝候補の選手も来季は復活してくるだろう。



短距離チームも久々の100m10秒台の可能性が見えてきたし、リレーも好記録が期待される。このシーズンから新しい風が吹き始めているのは間違いないと感じた。

筆 37回 野本